

会 議 録

会 議 名	平成 2 2 年度第 4 回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	文化推進係 はけの森美術館		
開 催 日 時	平成 2 3 年 2 月 1 7 日 (木) 午後 6 時 1 0 分から午後 7 時 2 9 分		
開 催 場 所	小金井市はけの森美術館 2 階		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 宮村令子副会長 淀井彩子委員 千村裕子委員 鈴木茂哉委員 豊岡弘敏委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	薩摩雅登学芸顧問 神津瑛子学芸員 荒木和学芸員 吉川まほ ろ主査 中嶋登再任用職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 平成 2 3 年度第 3 回運営協議会会議録について</p> <p>(2) 平成 2 2 年度事業の総括について</p> <p>(3) 平成 2 3 年度事業の予定について</p> <p>(4) その他</p> <p>(5) 次回運営協議会日程について</p>		

鉄 矢 会 長 では、定刻になりましたので、平成 2 2 年度第 4 回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催いたします。

1 審議事項

(1) 平成 2 2 年度第 3 回運営協議会会議録について

鉄 矢 会 長 議題 1、平成 2 2 年度第 3 回運営協議会会議録について。事務局からお

願いたします。

事務局(中嶋) 開催通知とともにご自宅あてにご送付いたしました。修正等ありましたら、本会議終了後お渡しいただければと思います。

(2) 平成22年度事業の総括について

鉄矢会長 質問がないようなので、2、平成22年度事業の総括について、よろしく願いたします。

神津学芸員 22年度の事業実施状況について、まず、展覧会。「新潟市新津美術館より笹岡了一展」、無事に終了いたしました。関連企画としまして、シンポジウム「画家のアトリエと美術館」が11月14日。ちょっと人数は少なかったんですけども、充実した内容になったと思っております。23年度刊行予定の年報別冊に本シンポジウムの報告を収録する予定となっております。

次に、関連企画2のワークショップです。当日のワークシートがとてもよいものができましたので、ワークショップ開催後、いらしたお客様にご覧いただけるようにリング綴じにしました。お時間がありましたら会議終了後にでもご覧ください。講師のホームページにも紹介されておりますので、あわせてご覧ください。

関連企画の3つ目が講演、「新潟の美術のDNA」というものになります。こちらは今、会議を行っているこの応接室で行ったんですが、新潟の学芸員をお呼びして、新潟の風土と笹岡了一の生涯をあわせておもしろい切り口の講演がなされました。

開催済みの展覧会の報告は以上です。次のページが次回展覧会、チラシと招待券をお配りしておりますが、開館5周年記念特別展として中村研一展。こちらは展覧会担当の荒木から。

荒木学芸員 既に特別招待状がお手元に届いているかと思えます。間もなく展示の準備に入るんですけども、今回の展覧会は開館5周年ということで、改めて中村研一の回顧展、開館のときと同様、当館だけでなく都内近郊の他の美術館からも作品を借用します。前の回顧展では、中村研一の中で一貫して変わらなかった写実、リアリズムをメインに取り上げていました。今回は逆に戦争で当時住んでいたアトリエが焼けて、小金井のこの場所にやってきた、その前と後で変わったところもかなり大きいのではないかと考えて、2部構成の展覧会にしています。ということで、チラシやポスターも中村初期の自画像と小金井に来てからの自画像、この2点をメインビジュアルにしています。

それから、5周年ということで展覧会の内容もそうですけれども、関連するイベントも多数行います。お手元にお配りしましたがけれども、現在、各事業の参加者を募集をしているところです。応募人数がまだもう少しというところなので、インターネットですとか新聞の地域欄にも掲載、働きかけようと考えています。

神津学芸員 そのまま教育普及活動の報告に移ってよろしいでしょうか。先ほど終了しました笹岡了一展において、開催済みの前原小学校以外の8校、9学年

となっておりますのは、1学年飛んでいた学校があった関係で、小学4年生プラス小学5年生の学校が1校あったために、9学年で鑑賞教室を実施いたしました。

無事に全日程を終了して、ほっとしていますけれども、来年度に向けてこれから先生方と当館の展示スケジュールと実施の予定をあわせて話していかなくてはいけないということと、職員の勤務体制がやはり少し無理がある、無理をしないと実施できない企画であるということは変わらないということが引き続き課題です。小学校との連携と書いてありますのは、鑑賞と制作の部分のやりとりをもう少し密に、先生方からのアプローチもほしいところだなと思っていますところです。

続きまして、緑中学校職場体験学習と書いておりますのが、今日3日目で終了したんですけれども、一昨年と昨年度に続いて緑中学校から申し入れがありまして、今までは3人だったんですけれども、今年は多くて7人でした。いろいろはけの森について知ったり、考えたり、ガイドブックをつくったりしました。

写真で、陶器を扱っているのは本物ではないですが、入れてみよう、結んだりするのを体験してみようというものです。あとガイドブックは、2種類、三つ折りで折ってあるものです。こちらは先ほど荒木から紹介がありました開館5周年記念特別展のイベントの一番最初の1つのプレイベント、はけの森の宣伝部を募集しているというものがありますが、その宣伝部に君たちを任命するというので、宣伝部として作ってもらったものです。一番下にはけの森美術館宣伝部緑中支部というふうに書いてあると思うんですが、7人で2種類、グループ分けをしてつくりました。

まずはけの森美術館を知らない職員としてはだめだということから、美術館ツアーをして、調べ学習の形で、当館が発行しているカタログですとか取材された雑誌などを全部与えまして、7人であだこうだと言いながら作っていました。これは宣伝部の実際の3月5日のイベントのときに配って、こういったものをつくりましたという報告をしようかなと思っています。

一番下、2枚の写真なんですけど、これはあさって開催のバルーンワークショップの会場設営のお手伝いをしているところ。今日の午後、講師の方に来ていただいて指導していただきました。展示室がかなりおもしろいことになっています。ガスを入れるものは当日の仕込みになるんですけれども、2日前にできることがあるので、ぜひこの中学生に体験させたいということで、講師の方にお願ひしまして、きょう機材と風船を持ち込んでいただいて、風船ではけの森に森をつくる準備をしました。職場体験は来年度も申し入れがあれば、ぜひ受け入れたいなと思っています。

ページ移りまして、その他、普及関連事業ということで紹介しましたけれども、展覧会と別立て教育普及の2のほうは、今、紹介しましたバルーンワークショップ。1個目の多摩ミュージアムネットワーク構想研究会、たまわーるラリー実施報告となっておりますのが、グラフの資料、この構想委員会で配付された資料になります。前回の会議でシールラリーのパン

フレットをお渡ししたと思うんですが、多摩の12館を回って、5枚と10枚からプレゼントがもらえるというシールラリーです。こちらは見ていただくとわかると思うんですが、当館の出庫数というのはそんなになんではないんですけども、シールを貼っている率が高い、このスタンプラリーを目指して来てくれたお客様が多かったということではないかなと思っています。

あと、資料はないですけども、運営委員会の中ではけの森の対応がとてもよかったと、わざわざラリーの事務局あてにお手紙をくれたお客様がいたということで、嬉しかったです。実は府中市美術館と回れるとか、ちょっと無理をすれば小平も行けるとか、そういったことが周知されたのはよかったなと思っています。一応、来年度も開催する予定ということで、そのときはぜひ参加したいなと当館としては思っております。

荒木学芸員 次に、美術館事業に関する報告事項、その他に移りたいと思います。

展覧会、教育普及事業以外のところで、まず1つ目、所蔵作品のデジタル・アーカイブ化について。これは前回の会議でも報告しました、文化庁の委託事業によって助成金が出まして、それによって当館の所蔵作品について今までいろいろなデータを学芸員一人一人が作品のデータを持っていたり、あるいはパソコンで検索するのにちょっと使いにくい形式だったものを整理し、どういった作品があるかを改めて確認していきました。これまでも当館の今後の課題として何度か挙げられていました所蔵品目録の制作の基礎となるデータをつくる作業ができました。

これに当たっては美術館情報を専門としている人、学芸大の学生にお手伝いをいただいて、データを整えていくことができました。当館の所蔵作品が今、正確な数がまだ確認中なんですけれども、大体700点台の後半ぐらい。それについても例えば作品の数え方—今までは5客組のカップを一つ一つ登録していたけれども、実際に展示をしたり、あるいは貸し出ししたりする時は1つのセットのものだから、5客1セットという数え方にしましょう、というような作品の再ナンバリング作業をこの機会に進めることができました。

そして、事業の主の目的である文化遺産オンラインという文化庁が主宰していますホームページに当館の所蔵作品のデータと画像を登録して、それをインターネットで公開するという最後の作業が残っています。

現在までの状況の3点目、作品撮影も既に完了してしまっていて、これから最後の登録作業に入ります。今年こうした文化庁の補助があったおかげで、一度に約120点ほどという多数の作品を一度に登録することができました。来年度以降もペースはかなり落ちるかもしれませんが、通常業務で無理がない範囲で、少しずつでも所蔵作品の情報を公開して、文化遺産オンラインで日本近代絵画を検索したら、その中にこの所蔵作品が出てくる、といった形に持っていきたいなと考えています。

続きまして、新収蔵作品についてです。今年度の初めに《シンガポールへの道》という大作の寄贈がありました。以後、昨年10月までの間にも幾つかの寄贈の申し出がありまして、昨年10月26日に収集評価委員

会を開催しました。

この作品の内訳につきましては、資料に一覧表がついております。全39点になります。一番多いのが素描や陶磁器。油彩作品が1点だけありまして、それが《仔猫》です。3月からの5周年記念展の中で、開館5年間の間に収蔵された作品を特集するコーナーを設けそこに多くを展示します。また、それ以降の所蔵作品展、2階の中村研一作品の常設展示の中でも順次公開していく予定です。

以上で、22年度の事業実施済みのものを中心にご報告いたしました。

鉄矢会長 今、議題2、平成22年度事業の総括についてを行っておりますが、今のことについてご質問、またはご意見等ございますでしょうか。

豊岡委員 緑中学校の職場体験の報告をいただきました。かねて受け入れをさせていただいてありがたく思います。職場体験ということで、緑中ばかりではなくて、またこういうことを紹介すれば、ほかの学校もぜひはけの森美術館にという生徒が出てくるのかなと思います。ただ、それがずっと続くようだとはけの森美術館自体も大変かなと思うんですけども、ニーズとしては、そういった訪問先、各学校探していますので、もしこちらの仕事に支障がない範囲でということであれば、ほかの学校にもはけの森美術館あるよということは何らかアプローチはできます。なので、ちょっと連携してできれば、きっと各学校も喜ぶのかなと。また、子どもたちもこういった体験は貴重な体験ですから、接する機会ができて、教育的にもいいのかなと思いました。以上です。

鉄矢会長 ほかに。今の意見に。

神津学芸員 ほかの学校も来たらいいなという意見はすごくたくさんあるんですが、実際にこの7人、3日間みっちり集中できたと思います。

豊岡委員 大変ですよ。

神津学芸員 例えば、印刷会社との打ち合わせ、これも職場体験であるということで同席させまして、色見本を見たり、合間合間に説明しながら打ち合わせをしたりですとか、そういったことをした3日間だったんですね。それはすごく中学生もおもしろかったようでしたし、私も楽しかったんですけども、そういう余裕を作れるかどうかは時期によります。学校が重なればどちらかを断らなくてはならなくなりますし、あまりこちらからどんどんさあどうぞと勧誘はできないんですが、声があればぜひという気持ちは持っております。

鈴木委員 私も初日午前中ちょっとこちらに用事があって来まして、ちょうど神津学芸員が生徒にいろいろな指導、ディスカッションをやっているところで、非常に生徒の目も生き生きとしていて、有意義な時間を、このはけの森美術館で過ごしてもらっているんだなと実感しました。今後においても、今、豊岡委員のほうからお話がありましたけれども、こういった連携が、時間を見つけて作っていくことができると感じているところです。

千村委員 質問、子どもたちは特に絵が好きだとかそういうんじゃないかと、どんな形でここに来る要望みたいなのが出てきたんでしょうかね。

神津学芸員 7人ばらばらだったんですけども、1人は4年生のときにアートフル

のワークショップに参加していたということで、はけの森美術館は好きだと自己紹介カードを書いてくれました。美術館というよりは美術が好きだという生徒ももちろんおりまして、あとは興味はないんだけど、お店よりも美術館がいいとか、多分、まじめに書いていてもそんなに美術館が好きというわけではない、けれどもどんなところかちょっと興味があってという子が多かったようです。アートフルに参加した子がいるというのはすごくうれしかったですね。

千村委員 とても印象的だったと思いますよ。きっと来年、後輩によかったぞ、行けみたいなことが必ず出て増えたりということもあるんじゃないかと思えますね。

神津学芸員 君たちはもうきょうから宣伝部なので、たくさん宣伝しなさいということでチラシもいっぱい持って帰ってもらいました。きっとあした学校で配るんじゃないかなと思っております。

鉄矢会長 学芸員の厳しさは伝わりましたか。楽しさのほうは伝わりましたか。

神津学芸員 私のお昼を食べるどんぶりでお茶碗の扱いはなんかをやったんですけども、まずガチャンと置かれたので、それだと割れるというようなことを言ったり、薄葉紙という実際に使う紙での梱包も、ほんとうはとてもたくさんやると五倍ぐらいになるといったら、すごく真剣に聞いていました。紙の見本を持ってきた業者とのやりとりも見られたのはよかったなと思います。紙は全部一緒じゃないんだということで、まずびっくりしていて、厚さなんかもたくさん触って、いい経験になったんじゃないかなと思っています。

千村委員 質問。どこと、どこに職場体験に行けますよという形で、このはけの森美術館というのが出たわけですか。それとも、子どもたちがどういうところに行きたいというふうにしたのでしょうか。

神津学芸員 まず、毎年担当の先生から電話があるんですけども、今年も大丈夫でしょうかと年度の初めに連絡がありますので、その時点で展覧会スケジュール等を含めて受け入れますという返事をしています。おととしに初めて受け入れは可能でしょうかという連絡が届きまして、そこで可能ですとこちらが答えて実施しておりますので、その経験から多分、候補を選ぶ中にはけの森美術館が入った状態で生徒にどこを希望するかという話をしているのではないかなと思います。

千村委員 先生からはけの森美術館はありますよみたいに。

神津学芸員 今年は多そうなんですが大丈夫でしょうかという連絡は年度の初めにいただいております。

千村委員 それだけ知られてきたということでもあるんじゃないですかね。

神津学芸員 去年たまたま幼稚園に行った生徒がインフルエンザで休園になった関係であぶれてしまって、最後の日だけうちに来たという経過がありましたので、その経験かもしれないですね。

鉄矢会長 意見なんですけれども、中学校もそうですし、小学校の活動もこの教育普及部門の活動がこの美術館のすごい特徴だと思うので、学芸員は忙しいとしたら、小学校の先生に東京都の図画工作研究会のほうで報告してもら

うとか、教員側は何らかこういう美術館とのネットワークを都内で多分、板橋もやっているんでしょ、練馬もやっているんでしょ、この多摩ミュージアムネットワークの中のものもやっているし、そういう話が美術館全体で情報が出てくること自身が、ここの特徴的だということも出てくるのではないかと思うんです。そういうふうに少し受け入れてあげるとこと、鑑賞の授業は今、図工の中でもものすごく注目されていますので、国立美術館だけがよく東京都の図工の研究会ではアップされるんですけども、そうじゃなくて地域の小さな美術館もこういうことをやっているような話で、地域に根差した活動ができるようなことを少しでも社会にアピールできるようになるといいですね。

神津学芸員 笹岡展開催中に、府中市の図工研の先生方の研究会がここで開催されたんです。通常画家のアトリエで開催されるものが、場所を抑えられなかったということで、当館はどうかと府中市の学芸員からの紹介で来たんですけども、館内など全部案内しました。同席していたんですけども、非常に熱心なのでほんとうに驚いて。比べることでわかったんですけども、小金井の先生方は大分受け身だと思いました。こちらからのアプローチを受けて、開催するということが通常なんですけれども、府中市の先生方は自分たちからどんどん報告をしますし、ネットワークもほんとうに密にやっているんで、これはすごいなと思いました。そういうノウハウ、それを小金井でやるにはどうしたらいいのかわからないなと思いながら出ていたんですけども。来月、来年度の開催予定について、小金井市の図工研と相談する予定ですので、府中市の図工研の話もしたいなと思います。

鉄矢会長 学校の先生方もいろいろ忙しいと思うので、小さくてもいいからそういう報告をしてもらえると、こういうやったかいがあるみたいな表現で進めていくだけでも、ちょっとずつよくなっていくんだと思います。

神津学芸員 ご意見ありがとうございます。

鉄矢会長 もう1つ、先ほど収蔵が700点台後半にいきそうだというのが明らかになってきたという中で、オンライン上に乗せるデータになるのは今、120点。その他を今、登録していくというのは同じようなデータ化していくという意味でしょうか。そうすると、今、780ぐらいだともし想定すると、まだ120で、これは予算がついて120できたという話だと、あと残りをやるのは10年ぐらいかかると考えていけば。

荒木学芸員 作品名とか作家名といった文字データのリストにつきましては、ほぼ全作品について一覧表にはなっています。その中で、例えばデータの記載漏れとか不足、あるいはミスなどの追加・修正をしていって、その中でまず今年度内に120点を先行して行う。同時に画像につきましても、アルバイトに来てくれた学生のおかげで、今、何点のポジフィルムがあって、どれくらいをこれからスキャンして、どれくらいの点数の追加撮影が必要かということがはっきりしました。ですので、今後の継続するアップロード、データ掲載の作業のかなりの下準備は、もう今年度の段階でできている状態にあります。

鉄矢会長 あと、どのくらいかかるといって、それははっきり言えないんで

しょうけれども、あとのボリューム感がもっと予算をつけないとこれはスムーズに、ほんとうは美術館開館までにこういうものはやっておくべきだったことであるとか、早期にやっておくべきことなんですけれども、5周年になってもまだまだ続かなきゃいけないところをせっかくこの機会ですから、もう少しこういう予算があったらいいなというのは、議事録として残せるものなのか、それとも、あともう大体できましたから、淡々とすれば終わるものなんですという話なのかを、ちょっとお聞きしたかった。

荒木学芸員 作品の一覧を作っていて気がついたのが、当館の所蔵作品についてタイトル、作家名はわかる。しかしそれ以外の例えば制作年などについては、ほかの作品や文献、展覧会の記録などつき合わせると、今まで不明としていたけれども、実は何年の作品じゃないかというのがわかってきた。そういった作業が今までこの館では十分できなかったんですね。それは調査するための時間をとれないからで、開館中なかなか学芸員が館をあけて、よその図書館等に調査に行きにくい、あるいは館の中で調べようにも、そのための文献資料を整備できていないということ、基礎的な参考資料も決して十分ではない状態なので、きちんと整えてから公開したいと思うと、まだまだ時間がかかります。ただ、作家名と作品名、あと図版だけをとりあえず掲出しておけばということでしたら、もっと早いペースで進めることはできるんですけれども。

鉄矢会長 ほぼ基礎的な登録はあるけれども、これをさらにきちんとしたデータ化していくときの研究が必要であると。研究のための時間と費用は持っていないと大変だということですね。了解しました。ほかに質問は。

千村委員 ちょっと初歩的な質問というか全然わからないので聞かせていただきたいんですが、最後のページの2010年度寄贈作品資料という、2010年度寄贈ということは、この年度内にだれか個人が持っていたり、どこかで持っていたものを寄贈してきたということなんですか。これだけの数だから年内に寄贈があったということなんですか。

荒木学芸員 うち30点以上が一人の方から一括でという形で寄贈を受けました。

千村委員 じゃあ、この美術館の作品なんかをインターネットで公開したりしているのを見たら、また個人で例えば1点持っているのを自分で保管できないから寄贈したいみたいなふうに広がっていく可能性というのがあるわけですね。

荒木学芸員 今年度の寄贈の中にも、それこそ中村研一の持っていたんですけども、今後のこともあるので、中村研一の名前を持っている美術館があるというならぜひそこに、できればみんなに見てもらいたいという形で寄贈の申し出をいただきました。今もまだ確定してはいませんが、そうしたお話は何件かいただいています。

千村委員 そうすると例えば画家が、本格的に作品を描いたんじゃなくて、お友達にちょっと訪問したときに書きなぐってあげたみたいなもので、サインなんかははっきりわからなかったり、そういうものについてはどういうふうに。

荒木学芸員 中村研一の場合は、あまり自分で積極的に作品を売ったりしていなかつ

たので、知人にあげたり、知人に頼まれて肖像画を描いたりということでは比較的身元をたどりやすいです。これまでにお話をいただいたものも、こういう由来で自分が持っていたというお話を聞いた段階で現物を見て、これは確かに中村研一の作品であると確認できるものについて、寄贈を受け入れています。

千村委員 よく画家が放浪の旅に出て、ちょっと1泊お世話になったところに一筆書いたというような事が、書の場合でも日本画の場合でもあったりしますが、そういう感じではなかった方なんです。

荒木学芸員 それに近いようなものも中村研一の知り合いの画家だったり、関係者の方が持っていたということが多いので、身元をたどりやすいです。

千村委員 なるほど、そういうことは、すごく興味深いですね。ありがとうございます。

鉄矢会長 ほかにございますでしょうか。やはり市のものになったから寄贈が来るんですか。もともと中村研一美術館はあったわけですよね、ずっと長い間。

神津学芸員 当時は購入費がついておりましたので、何年かごとに作品を購入している記録が残っています。寄贈も受け入れていた記録があります。

鉄矢会長 もともともそういうのはあったんだけど、まだまだ。

神津学芸員 この2年で多かったというのは、中村研一記念の冠のついた市立美術館として周知されてきたのでないかということです。

薩摩学芸顧問 市の財産になったものは、基本的には売却しないですよ、館長。日本の場合、国公立の財産は、使えなくなって登録を取り消して抹消する、捨てる、机とかいすとかそういうのはあっても、そうでないものは基本的にほかに転売するということがないですから、コレクターや持っている人の側から言うならば、寄贈するならば私立とか個人ではなくて、公のところに寄贈したいという心理は絶対にあると思います。

(3) 平成23年度事業の予定について

鉄矢会長 3番目の平成23年度事業の予定についてに移りたいと思います。よろしくお願ひします。

神津学芸員 資料2をご参照ください。展覧会の写しが、開館5周年記念特別展になります。こちらは4月1日以降の企画に関しましては、予算が次年度、23年度になりますが、のっております。2と3が23年度の企画展の予定です。2が江戸人形お芝居の結城座展。小金井に事務所のあります結城座さんの仮称となっておりますが、人形も恋をするというようなことが、先方と話しているときに向こうから出まして、そのような生の展示をぜひこの年でできたらというやりとりをしまして、仮称のタイトルがついています。6月1日から7月3日までを予定しています。次に、3が「朝倉文夫の猫たち」です。

荒木学芸員 こちらは現在、改装のため休館中の台東区立朝倉彫塑館から、朝倉文夫の作になる猫の彫刻、ブロンズ彫刻が二十数点ありまして、それをすべてお借りする。また、朝倉文夫が非常に猫好きだったということで有名ですので、それに関しての俳句を書いたりもしているのです、そういった生原稿

など朝倉彫塑館に所蔵されている関連資料などもあわせて展示したいと考えています。また猫好きの芸術家ということでは、中村研一も負けていませんので、当館の所蔵作品の中にも猫を描いたものですか、おそらく中村研一自身が飼い猫を写したと思われる写真、そうしたものを同じ会場にするか2階の展示室にするかまだ考えているところなんですけれども、同時に展示しまして、はけの森を猫の森にしてしまおうかというようなことを考えています。

神津学芸員 せっかく6月1日からだったり、夏だったり、時期の近い展覧会になりますので、両面の仮チラシのようなものをつくろうかという企画をしております。A5サイズで、色は1色なんだけれども、人目を引くようなもの。お芝居などでやるような手法で、仮チラシをつくろうかなと思っています。

4番目が所蔵作品展で、開催時期未定となっておりますが、これは改修工事の日程が未確定のため未定となっております。

次に、教育普及事業ですが、こちらは方法・時期は未定ですが、「猫展」開催中と、あとは年度後半に実施かと思っていますところ。鑑賞教室も前にも言いましたとおり、実施時期は検討中で、来月、先生方と当館のスケジュールを相談して進めなければと思っていますところ。

その他、「小金井市立はけの森美術館年報」、仮称ですけれども、創刊号の制作・発行が23年度の事業予定の中に組まれております。

鉄矢会長 ありがとうございます。学芸大の芸術学の尾関先生というのが猫好きです。それから、美術のデザインの正木先生も猫好きです。それから、学芸大はなぜか猫チャンネルが動いております。それから、もしかしたら今、NHKの0655で、「わたしねこ」というのが、全国から猫のビデオがずっと投げられたり、いろいろなものとネットワークできる、世の中の「ねこ鍋」もあるし、「猫カフェ」もいっぱいあるので、もしかしたら朝倉彫塑館が猫を持っているときよりも、ここに出たほうがすごかったと言われるぐらいに楽しいイベントのネットワークができれば、素敵だなと思います。ぜひシャトー2階なんかも使ったりしていただいたりするとおもしろいかなと思いますので、小金井も猫がいっぱいいるみたいですから、ぜひ伸び伸びやって、うわっと驚くようなことができていいかなと思っています。

神津学芸員 仮チラシができ次第、猫雑誌や猫カフェにもアプローチする予定です。展覧会自体は渋いかっちりしたもので、打ち出し方は少しキャッチーにしたいと思います。

薩摩学芸顧問 ちょっと補足させてください。この展覧会は、猫ということで当然、好きな人も嫌いな人もいるでしょうから、賛否両論になるのかもしれませんが、中村研一との関連、つまり中村研一が大変な猫好きであったということがまず1つ。

それから、たまたま朝倉彫塑館が耐震工事のため改装工事中で、どの作品でも貸してくれるというタイミングがあるということ。それから、もう1つは、朝倉文夫という作家は戦前の写実彫刻の人で、いわゆる偉い人た

ちの肖像彫刻をつくっていた方で、写実の大家としての評価が高い一方で、少し無味乾燥であるみたいな批判もある人です。けれども、大変な猫好きで、もしかしたら朝倉文夫の一番の傑作は猫かもしれない。そのぐらいのものなんですね。といいますのは、先生もいらっしゃいますけれども、動物の彫刻というのは意外に難しいんです。というのは、動物はポーズをとってくれませんので、こうやって30秒立っているといってもやってくれませんので、ほんとうにふだんから好きで、その動き、表情を身近で長いこと見ている人でないとなかなかつくれないんですね。ですから、意外に動物の彫刻のいいものというのはなかなか量がないことがあります。ですから、そういうこともあって、水準的にもある程度のものが維持できるのかなということで、今、学芸員の方からも話がありましたけれども、いわゆる展覧会としてのレベルは維持しつつ、楽しいものにしていきたいという企画でございます。

(4) その他

鉄矢会長 では、4番、その他、お願いいたします。

事務局(中嶋) お手元に資料3ということで1枚ものが。平成22年度小金井市立はけの森美術館入館者数並びに各展示会ごとの入館者数、お手元にご配付してございます。22年度、このような入館状況であったということでございます。

鉄矢会長 ありがとうございます。入館状況等についてのご質問やご意見ございますでしょうか。これは昨年同時期と比べるとどんなものでしたっけ。

事務局(中嶋) 昨年同時期と比べると、人数的には事業ごとによってちょっと違う。伸びているところと伸びていないところがあったと思うんです。

鉄矢会長 1月いっぱいまでで4,853人の入館者数があったということですよ。それで前回の昨年度の1月末現在の入館者数っってもうちょっと多くなかったりしませんでしたっけ。

薩摩学芸顧問 昨年度のガラス、笹岡一よりはガラスのほうが入ったかもしれせん。

神津学芸員 開催済みの企画展が2本ありましたので、展覧会の数としても今年のほうが多かったと思います。

鉄矢会長 入館者数で判断しちゃいけないというのは、前々から先生方よりお聞きしていますのであれなんですけれども、参考までに聞いてみました。いや、数字が出るとそういうのが気になるというのも我々も身をもって思いながら気になるんです。でも、あくまでも美術館の成果というのは、そういうものではかるものではないというのが前提でこの協議会は話しておりますので、その上でのお話と理解してください。

千村委員 オープン・ミトンに来ている方が多いですが、必ずしもというか、ほとんど美術館に行っていないということもあって、例えば、このオープン・ミトンに行ったら、美術館に寄ってみようと思うような工夫はありますか。あそこのお店の中には何の催しをやっているかなんてポスターも貼ってないですし。

神津学芸員 チラシは置いていただいていますし、かなりのお客様がカフェからチラシを持って美術館に来てくれることがあります。私自身も美術館に行つて、必ずカフェに行くかといったらそうではないので、反対のこともきつとあるだろうなと思つているんですが。

ついでこの間、チラシできましたか、新しい展示はないんですかと問い合わせるお客様は増えていきますよとオープン・ミトンさんから聞いて、うれしいなと思つました。もう少し連携はしていきたいなと思つていますが、やりとりする機会がそんなにない。美術館のカフェというわけではない、少し不思議な形ですが、オープン・ミトンさんというところがあるので、そこは少し難しいです。例えば、展覧会ごとに何か特別なメニューとかそういったやりとりは全然できていない状態ですし、まだできないかなと思つます。なかなか難しいですが、美術館としてはぜひ緑地も含め全部楽しんでくださいと言つしかないかなと思つています。

千村委員 平日でも座るところがなくて、待っているというような感じの日が結構あるんですね。日曜とかはもちろんです。だから、それがみんな美術館のほうに行つてくれればいいなと思つたんですけど。わかりました。

淀井委員 何かチケット持つていくと割引とかないんですか。

神津学芸員 ないですね。

鉄矢会長 並んだ順番ごとに病院みたいにブザーを持つて、どうぞ、美術館に、あきましたよ……。

荒木学芸員 似たことはあります。ミトンに携帯番号を伝えて、「空いたら連絡してください」と、それで美術館に来て、「すいません、呼び出しが来ちゃつたので、あとでまた見に来ていいですか」と。再入場となりますけれども、そうした場合にはぜひもう一度見に来てくださいと対応しています。

神津学芸員 第一の目的がカフェであつたとしても、その待ち時間で美術館のほうに行けるということで、足を運んでくださるお客様もいると聞いています。

千村委員 ありがとうございます。

鉄矢会長 その他ほかにありますか。

事務局(中嶋) 皆様のお手元にご配付してあります資料4でございます。平成23年度小金井市立はげの森美術館予算内示(概要)についてでございます。

この平成23年度予算につきましては、3月22日、議会最終日に議決予定でございますので、現時点では予算の内示でございます。

鉄矢会長 研究経費とか研究にかかわる交通費等は、事業に要する経費のどこかに入っているというふうに考えてよろしいんですか。

神津学芸員 調査研究費は2カ所、展覧会のための調査研究費ということで、前年どおりついております。事業に要する経費の中に含まれているはずですよ。

鉄矢会長 わかりました。美術館ですから、事業の中で、美術館がやっている事業の教育普及とその部分はやはり経費としてちょっと注目できるようにしたほうがいいのかなど。それとも注目しないほうがいいのかは、美術館、館長にお任せしますけれども、多分、そこは注目点だと思つております。そういうことをしている美術館なのか、そういうことを軽んじている美術

館なのかというのは。

神津学芸員 展覧会によってかかる予算も変わっておりまして、教育普及関係に関しては例年どおり各展覧会ごとと、年に2回の展覧会は別立て、教育普及事業は積んでおります。

鉄矢会長 多分、市民に対して見える化しなきゃいけないものってあると思うんですね。この美術館の特徴であるものをどう見える化していくかというのも、もしかしたら見る方によっては、こういう予算みたいなものでも見る方もいらっしゃる。今は内示ですので、見えるようになったときの表現の仕方だと思います。

(5) 次回運営協議会日程について

鉄矢会長 では、5番の次回運営協議会日程についてです。

日程について協議

鉄矢会長 次回運営協議会日程は2011年5月17日の6時。

その辺を年度明けて、展示がスタート、この期間中の終わりのほうですので、ゴールデンウィークのイベントが終わって、少し落ちつけばと思います。

では、これにて平成22年度第4回小金井市はけの森美術館運営協議会を閉会したいと思います。

ありがとうございました。

— 了 —